

久慈拓陽支援学校

研究テーマ

「一人一人の可能性を伸ばす授業づくり～三つの柱をもとにした目標立てから三観点での学習評価の取組を通して～」(2年次研究：1年目)

1 全体研究

(1) 研究主題設定の理由

昨年度研究の課題として「新学習指導要領の内容についての理解が必要」であることが挙げられた。また、アンケート調査から「新学習指導要領に基づく授業づくり」に関心が高いことが分かった。そこで、以下の2点の理由から本研究主題を設定することにした。

1点目は、本校の教育目標の達成に向けた教育活動の見直しである。教育目標の中の「教育実践を通して一人一人の可能性を最大限に伸ばし、健康でたくましく生きる人間を育成する」ためには将来の成長する姿を思い描き、将来的に主体的に生活していくための力を、教育活動全体を通して育まれる必要がある。このことは、新学習指導要領の考えと一致する。教育目標達成のためにも授業づくりと学習評価を充実させ、教育活動の見直しを行いたいと考えた。

2点目は、新学習指導要領について研修を兼ねた研究を早期に行う必要性である。本校では、今年度から指導内容に対する学習評価を通知表に三観点を明記することとなったが、本校全体として新学習指導要領に関する研修の機会がほとんどなく、評価の仕方に不安を感じる職員が多かった。学習評価は授業づくりと表裏一体であり、授業を計画する時点から学習評価の観点がなければ、授業中あるいは授業後に個別の学習評価をすることは難しい。本研究を通して、授業づくりから学習評価までの実践を通してより新学習指導要領について理解を深めたいと考えた。

以上から、単元や時間のまとまりを見通し、個別の指導計画とのつながりを考えながら授業づくりを行い、学習評価や次の授業づくりに活かしていけるよう研究を推進する。

(2) 研究の目的

新学習指導要領に沿った授業づくりと個別の指導計画の学習評価について研修しながら実践を重ね、「一人一人の可能性を伸ばす」教育活動について検討する。

2 研究方法

単元・題材シートと個別の評価シートを使用し、各研究グループで授業づくり、実践、評価(単元・題材、個別)を検討する。研究対象とする単元・題材は研究グループ単位で決め、個別の評価は、対象児童生徒1～2名を各グループで選出する。研究グループは授業メンバーで構成する。

3 各学部研究

(1) 小学部

低学団、高学団を研究グループとした。前期は、低学団：生活単元学習「七夕まつりをしよう」、高学団：生活単元学習「ハロウィンパーティをしよう」、後期は、低学団：体育「的あてゲームをしよう」、高学団：図画工作「水族館をつくろう」について授業づくりと個別の学習評価を行った。三つの柱や三観点評価についての意識を高めることができた。三観点評価に対する不安を覚える職員もいることから研修を重ねる必要がある。

(2) 中学部

作業学習を研究対象として取り上げ、2つの作業班ごとの研究を推進した。三つの柱をもとにした単元・題材の目標立てでは、対象生徒の目標立てとのつながりに悩む職員もいたが、検討会を通して職員間で授業内容や対象生徒の支援について理解を深めることができた。行事との兼ね合いや年間指導計画と諸計画とのつながりを考えた計画の再検討が必要である。

(3) 高等部

作業学習で研究を推進した。第二回全校研究会兼開かれた授業研究会では、4つの班の中から調理班の授業を研究授業として取り上げ、学校全体で協議した。他学部職員と共有したことによりカリキュラム・マネジメントへの一歩になった。

4 講演会(兼開かれた授業研究会)

演題：発達障がいのある子どもの自己理解・他者理解をふまえた教育・支援

講師：岩手大学 教育学部特別支援教育科
准教授 滝吉美知香 氏

期日：7月26日(月)

参加者：約40名